

私がこれまで以上に利用したくなるような図書館作りには大きく分けて、2つの策がある。一つ目は、そこに行くきっかけを作ること、二つ目は居心地のいい環境作りのための施設作り、この2つが重要だと考える。

一つ目の策の具体例として、図書館の開館時間を24時間にすることである。そうすることでのメリットは、学生が授業の合間に利用するのはもちろん、早朝に1限の授業が始まるまでや、夜間のアルバイト終わりなどに図書館を利用することができるため、課題や授業での調べものを行うことができるため行きやすい図書館になると考える。いつでも行きやすい図書館にすることが重要であり、行きやすくなることで次の策も有効に使えると考える。次の策として、図書館の入場には学生証を用いるためそのシステムを活用し、入場で1ポイント本を借りたら3ポイントなどといった、ポイント制を設けることで普段図書館を、利用しない人が行くきっかけになると考える。このポイントは、学食の食券や学校内にあるコンビニエンスストアで使える割引券と交換することができるようにする。

二つ目の策の具体例として、図書館内を三つに分ける。四つの内

訳として、1つ目のエリアは今と同様本を読んだり、勉強したりすることができるスペースである。2つ目は勉強のみを行う人をターゲットにした勉強集中スペースを設ける。現在は「本気の勉強部屋」があるが、そこは公務員試験勉強をする人などの限られた人しか入ることができないため、テスト勉強や資格の勉強を行いたい人が静かに勉強することのできる部屋を作る。この部屋には図書館の本の持ち込みを禁止する代わりに、カフェテリアに設置されているようなカップタイプの自動販売機を設置し、軽食であれば飲食を可能とする。開館時間を24時間にすることで時間を気にせず勉強に集中することができるため、一つ目の策にもつながる部分もあると考える。三つ目はグループワークを行うことができる部屋を増やすことである。今でもグループワークを行うことのできる部屋があるが、今よりもサイズが小さい部屋を設けたり、コンセントを設けることでグループワークを行いやすい環境が整うと考える。

以上の二点の策を活用することで多くの人が、図書館を利用して本や学習を取り組むと考える。利用する人が多くなることで、図書館での本に触れる人が増え、読書離れの問題も解決すること

ができると考える。